

# SPROUT

## House in Nishimachi T House



設計：石塚 和彦 石塚和彦アトリエ 一級建築士事務所  
建設地：北海道札幌市西区

設計期間：2010年12月 ~ 2011年11月  
工事期間：2011年11月 ~ 2012年05月  
用途地域：第一種住居地域  
敷地面積：72.95㎡  
建築面積：43.50㎡  
延床面積：119.01㎡  
構造規模：木造・地上3階  
外部仕上：屋根：シート防水  
外壁：ガルバリウム鋼板長尺一文字葺  
古貫板 突付貼 素地  
内部仕上：床：ナラフローリング  
壁・天井：塗装下地クロス+EP-II  
針葉樹合板 ガードラック塗装  
施工：株式会社 丸繁赤坂建築



「SPROUT」は、北海道札幌市の中心部の狭小地にたつ、小さな住宅である。琴似発寒川に面した眺望と背後に住宅が近接している周辺環境の対照的なあり様を持つ「SPROUT」の敷地は、狭くて多様な居心地のいい空間と変形したプロポーションを持つ特徴的な外観を生み出すきっかけを与えてくれた。

「狭さ」は決してネガティブなことではなく、豊かさを内包している。東京の下町で育った僕には、狭いことを許容する身体感覚がある(というか、狭いことの心地よさを実は知っている)と勝手に自負しているのだが、「SPROUT」のクライアントは、僕と同じ身体感覚をお持ちの方だった。

敷地の形に合わせた最大限のフットプリントを確保しつつも、それを一様に使うのではなく、階段を中央に置いて内部をさらに狭くて小さな空間に分節していく。分節された空間は適度なレベル差がつけられ、それぞれが異なる「居場所」となっている。クライアントと打合せを重ねる中で、自然に、狭くて豊かな空間が収斂されていった。

狭さの感覚や質は、周辺環境や空間との繋がり方によって多様に変化するものだ。LDKや浴室は、大きな開口・テラスと庇によって、ダイレクトな光をコントロールしながら、視覚的に外部と繋がる広がりを獲得しつつ、特徴的なねじれた外壁の外観を生み出している。一方で、玄関から続く小さな土間や小上り・主寝室は、ハイサイドライト等で間接的に光を柔らかく取り込みながら、周辺と視覚的な隔たりをつくることで、狭さが強調された居心地のよさを生み出している。

周辺環境や空間との繋がり方をコントロールすることによって、分節された狭さに豊かさを与え、多様な「居場所」を生み出す。多様なアクティビティが内包される住宅にとっては、光や視覚に対する不均質性のようなものが必要なのだと思う。

この小さな住宅から、クライアントの新たな生活が芽生えていくと同時に、老朽化した賃貸住宅が多く残るこの場所の古い街並みに対して、この建築が新たな芽となり、変化を生み出すきっかけとなることを願っている。

